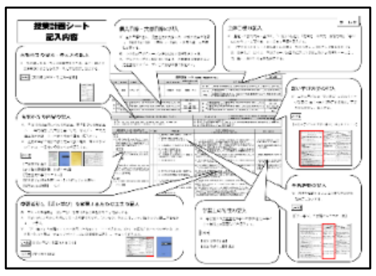
令和３年度

鹿児島大学教育学部附属特別支援学校

# 公開研究会

## 「深い学び」を実現するための授業づくりのツール集


| ツール名 | ページ |
|---|---|
| ツール１<br>見方・考え方一覧表 | １～４ |
| ツール２<br>本校の子どもの「深い学びの姿」のイメージと「深い学び」を実現するために有効だった工夫 | ５ |
| ツール３<br>・授業計画シートの書式<br>・授業計画シートの記入内容  | ６～７ |

# 見方･考え方一覧表

## ◎　見方・考え方とは？

見　方　⇒　　物事を捉える視点

考え方　⇒　思考の進め方や方向性

## ◎　新学習指導要領には，見方･考え方について次のように記載されています。

- 　深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。
- 　各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり，教科等の学習と社会をつなぐものであることから，児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ，教師の専門性が発揮されることが求められること。
- 　「見方・考え方」は，新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり，思考力，判断力，表現力等を豊かなものとしたり，社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり，習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて，より質の高い深い学びにつなげることが重要である。
- 　各教科等の解説において示している各教科等の特質に応じた「見方・考え方」は，当該教科等における主要なものであり，「深い学び」の視点からは，それらの「見方・考え方」を踏まえながら，学習内容等に応じて柔軟に考えることが重要である。

# 教科等の見方・考え方（小学部）

※【　】は，特別支援学校学習指導要領解説教科等編（小学部・中学部）との対応を示す。

## 生活科

**【P41：生活に関わる見方・考え方】**

身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすることである。生活に関わる見方は，生活を捉える視点であり，生活における人々，社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかという視点である。

また，生活に関わる考え方とは，自分の生活において思いや願いを実現していくという学習過程の中にある思考であり，自分自身や自分の生活について考えることやそのための方法である。

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| ○　身近な生活における人々と自分との関わり<br>○　社会と自分との関わり<br>○　自然などの対象と自分との関わり | ○　自分の生活において思いや願いを実現していく過程で思考すること<br>○　自分自身や自分の生活について考えていくこと |

## 国語科

**【P79：言葉による見方・考え方】**

対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めること

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| ○　言葉の意味<br>○　言葉の働き<br>○　言葉の使い方 | ・　音として意識する　・　聞いて連想する　・　想像・イメージする　・　類似・相違・種別を判断する<br>・　当てはめる・組み立てる　・　関係付ける・関連付ける・構成する　・　比較・対照する　・　分析する<br>・　論理的に考える　・　選択・選別・抽出する　・　推考する |

## 算数数学科

**【P107：数学的な見方・考え方】**

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，根拠を基に道筋を立てて考え，総合的・発展的に考えること

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| 事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること<br>※　数学的な見方に関連するものは，思考力，判断力，表現力等の「～に注目して」，「～に着目して」などという文言により記述してある。 | 目的に応じて数，式，図，表，グラフ等を活用し，根拠を基に筋道を立てて考え，問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら総合的・発展的に考えること |

## 音楽科

**【P142：音楽的な見方・考え方】**

音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，生活や文化などと関連付けること

| 見方 | | 考え方 | | |
|---|---|---|---|---|
| 音楽を形づくっている要素を使って音や音楽を捉える視点 | 音色<br>リズム<br>速度<br>反復<br>呼びかけとこたえ | 音色<br>リズム<br>速度<br>反復<br>呼びかけとこたえ | ・　聴き取る<br>・　感じ取る | ・　音楽の形づくられ方を考える<br>・　雰囲気や表情について考える<br>・　曲や演奏のよさに気付く |

## 図画工作科

**【P187：造形的な見方・考え方】**

感性や想像力を働かせ，対象や事象を，形や色などの造形的な視点で捉え，自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

| 見方 | | 考え方 |
|---|---|---|
| 形 | 大小，長短，数，図形，身近な具体物 | ・　違いや感じを捉える　・　特徴を捉える<br>・　比較する<br>・　共通点を見出す<br>・　自分のイメージをもつ（想像を膨らませる）<br>・　よさや美しさを感じる |
| 色 | 単色，色の組み合わせ，混色，明るさ | |
| 材料 | 質感，重さ，素材 | |

## 体育科

**【P218：体育や保健の見方・考え方】**

「体育の見方・考え方」については，生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ，「運動やスポーツを，その価値や特性に着目して，楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え，自分の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」としている。

「保健の見方・考え方」とは，疾病や傷害を防止するとともに，生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ，「個人及び社会生活における課題や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること」としている。

**見方**

【価値】公正，協力，責任，参画，共生，健康（体力の向上），安全等

【特性】運動・スポーツの魅力（楽しさや喜びなど）

技能的側面（体の動かし方，姿勢，位置，タイミング，方向など）

健康や安全に関する原則や概念

**考え方**

体育科の考え方

＝自己の適性等に応じて「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること

| | する | みる | 支える | 知る |
|---|---|---|---|---|
| 生涯スポーツにおける捉え | 継続して運動やスポーツを行う。<br>スポーツ大会等に選手として参加する。 | 実際に競技場に行ったり，テレビ中継を見たりして，スポーツ観戦をする。 | サポーターとしてチームを応援する。<br>スポーツ大会等の運営や補助スタッフをする。 | スポーツの時事ニュースについて知る。<br>スポーツの歴史や有名選手などについて調べる。 |

| | する | みる | 支える | 知る |
|---|---|---|---|---|
| 授業レベルでの捉え | 題材で扱う，運動やスポーツに実際に取り組む。 | プロ選手のプレーを映像で確認する。<br>教師や友達の動きやプレーを比較する。<br>○○大会やミニゲームなどで，友達の試合を見る。 | 友達の応援をする。<br>審判補助等をする。 | 実際に行われている大会等の時事ニュースを知る。<br>運動やスポーツ自体の概要やルールについて知る。 |

保健の考え方

＝疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること

## 特別の教科道徳

**見方・考え方**

（中教審答申 H28.12.21）

様々な事象を道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え，自己の生き方について考えること

# 教科等の見方・考え方（中学部）

※【　】は，特別支援学校学習指導要領解説教科等編（小学部・中学部）との対応を示す。

## 国語科

**【P258：言葉による見方・考え方】**

対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めること

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| ○　言葉の意味<br>○　言葉の働き<br>○　言葉の使い方 | ・　音として意識する　・　聞いて連想する　・　想像・イメージする　・　類似・相違・種別を判断する<br>・　当てはめる・組み立てる　・　関係付ける・関連付ける・構成する　・　比較・対照する　・　分析する<br>・　論理的に考える　・　選択・選別・抽出する　・　推考する |

## 社会科

**【P280：社会的な見方・考え方】**

社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。「社会的な見方・考え方を働かせ」ることは，視点や方法（考え方）を用いて，調べ，考え，表現して，理解したり，学んだことを社会生活に生かそうとしたりすることなど

| 見方 | | 考え方 |
|---|---|---|
| ア　社会参加と決まり | ・集団生活　・社会生活 | ・関連付ける |
| イ　公共施設と制度 | ・決まり　・役割(社会参加) | |
| ウ　地域の安全 | ・役割　・働き | ・比較する |
| エ　産業と生活 | ・関係機関　・協力　・地域の人々 | |
| オ　我が国の地理や歴史 | ・役割(生産・運輸・販売・消費) | ・総合する |
| カ　外国の様子 | ・消費者 | |

## 算数数学科

**【P107：数学的な見方・考え方】**(※小学部算数に記載)

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，根拠を基に道筋を立てて考え，総合的・発展的に考えること

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| 事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること<br>※　数学的な見方に関連するものは，思考力，判断力，表現力等の「～に注目して」，「～に着目して」などという文言により記述してある。 | 目的に応じて数，式，図，表，グラフ等を活用し，根拠を基に筋道を立てて考え，問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら総合的・発展的に考えること |

## 理科

**【P333：理科の見方・考え方】**

「見方」については，「生命」を柱とした区分では，主として多様性と共通性の視点で捉えることを，「地球・自然」を柱とした区分では，主として時間的・空間的な視点で捉えることを，「物質・エネルギー」を柱とした区分では，主として質的・実体的な視点で捉えたり，量的・関係的な視点で捉えたりすることを，それぞれの区分における特徴的な視点として整理することができる。

「考え方」については，生徒が問題解決の過程の中で用いる，比較，関係付け，条件制御，多面的に考えることなどといった考え方を「考え方」として整理することができる。これらの「考え方」のうち，中学部の生徒の実態を考慮し，特に「比較する」，「関係付ける」という「考え方」を働かせることにより問題解決を行うことができるようにすることが大切である。

| 見方 | | 考え方 |
|---|---|---|
| 生命 | 多様性と共通性 | ・比較する<br>複数の自然の事物・現象を対応させ比べること |
| 地球・自然 | 時間的・空間的 | ・関連付ける<br>自然の事物・現象を様々な視点から結び付けること |
| 物質・エネルギー | 質的・実体的 | ・条件を制御する<br>自然の事物・現象に影響を与えると考えられる要因について，どの要因が影響を与えるかを調べる際に，変化させる要因と変化させない要因を区別すること |
| 理科全般 | 量的・関係的 | ・多面的に考える<br>自然の事物・現象を複数の側面から考えること |
| ※　これらの特徴的な視点はそれぞれ区分固有のものではなく，他の区分においても用いられる視点である。 | | |

## 音楽科

**【P367：音楽的な見方・考え方】**

音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，生活や文化などと関連付けること

| 見方 | | 考え方 | | |
|---|---|---|---|---|
| 音楽を形づくっている要素を使って音や音楽を捉える視点 | 音色 | 音色 | ・　聴き取る<br>・　感じ取る | ・　音楽の形づくられ方を考える<br>・　雰囲気や表情について考える<br>・　曲や演奏のよさに気付く<br>・　思いや意図をもって表現する<br>・　よさなどを見いだす<br>・　味わって鑑賞する |
| | リズム | リズム | | |
| | 速度 | 速度 | | |
| | 反復 | 反復 | | |
| | 呼びかけとこたえ | 呼びかけとこたえ | | |

## 美術科

**【P408：造形的な見方・考え方】**

表現及び鑑賞の活動を通して，よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や，想像力を働かせ，対象や事象を，造形的な視点で捉え，自分としての意味や価値をつくりだすこと

| 見方 | | 考え方 |
|---|---|---|
| 形 | 大小，長短，数，図形，立体，身近な具体物 | ・　違いや感じを捉える　・　特徴を捉える<br>・　働きを捉える　・　比較する<br>・　共通点を見出す　・　見立てる<br>・　自分のイメージをもつ（意味や価値をつくりだす）<br>・　よさや美しさ，面白さを感じる |
| 色・色彩 | 単色，色の組み合わせ，色味，混色，明るさ，鮮やかさ，濃淡 | |
| 材料 | 質感，性質，重さ，自然物，人工物 | |
| 光 | 明暗，影 | |
| 表現方法 | 技法 | |
| 空間 | 奥行き | |

## 保健体育科

**【P438：体育や保健の見方・考え方】**

「体育の見方・考え方」とは，生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ，「運動やスポーツを，その価値や特性に着目して，楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え，自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」としている。

「保健の見方・考え方」とは，疾病や傷害を防止するとともに，生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ，「個人及び社会生活における課題や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること」としている。

**見方**

【価値】公正，協力，責任，参画，共生，健康（体力の向上），安全等

【特性】運動・スポーツの魅力（楽しさや喜びなど）

技能的側面（体の動かし方，姿勢，位置，タイミング，方向など）

健康や安全に関する原則や概念

**考え方**

保健・体育科の考え方

＝自己の適性等に応じて『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること

| | する | みる | 支える | 知る |
|---|---|---|---|---|
| 生涯スポーツにおける捉え | 継続して運動やスポーツを行う。<br>スポーツ大会等に選手として参加する。 | 実際に競技場に行ったり，テレビ中継を見たりして，スポーツ観戦をする。 | サポーターとしてチームを応援する。<br>スポーツ大会等の運営や補助スタッフをする。 | スポーツの時事ニュースについて知る。<br>スポーツの歴史や有名選手などについて調べる。 |

↓

| | する | みる | 支える | 知る |
|---|---|---|---|---|
| 授業レベルでの捉え | 題材で扱う，運動やスポーツに実際に取り組む。 | プロ選手のプレーを映像で確認する。<br>教師や友達の動きやプレーを比較する。<br>○○大会やミニゲームなどで，友達の試合を見る。 | 友達の応援をする。<br>審判補助等をする。 | 実際に行われている大会等の時事ニュースを知る。<br>運動やスポーツ自体の概要やルールについて知る。 |

保健の考え方

＝疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること

## 職業・家庭科

**【P472：職業に係る見方・考え方】**

「職業に係る見方・考え方を働かせ」とは，職業に係る事象を，将来の生き方等の視点で捉え，よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うことを示したものである。

**【P473：生活の営みに係る見方】**

「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とは，家庭分野が学習対象としている家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る事象を，健全で豊かな家庭生活を営む視点で捉え，生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造するために，よりよい生活を工夫することを示したものである。

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| 【職業科】<br>将来の生活や生き方とつなげて考える視点<br>【家庭科】<br>健全で豊かな家庭生活の営みとつなげて考える視点<br>①協力・協同<br>②健康・快適・安全<br>③生活文化の継承・創造<br>④持続可能な社会の構築 | 【職業科】<br>・既知の知識や技能を結び付ける<br>・将来の職業生活に主体的に関わり，課題を解決する<br>【家庭】<br>・実生活から課題を見出す<br>・課題を関連付けて，解決策を考える<br>・体験的活動の結果を理由とともに説明する<br>・他者と自分の意見の相違点，共通点を基に評価・改善する |

## 特別の教科道徳

**見方・考え方**

（中教審答申 H28.12.21）

様々な事象を道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え，自己の生き方について考えること

# 教科等の見方・考え方（高等部）

※【　】は，特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（高等部）との対応を示す。

## 国語科

**【上　P44：言葉による見方・考え方】**

対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めること

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| ○　言葉の意味<br>○　言葉の働き<br>○　言葉の使い方 | ・　音として意識する　・　聞いて連想する　・　想像・イメージする　・　類似・相違・種別を判断する<br>・　当てはめる・組み立てる　・　関係付ける・関連付ける・構成する　・　比較・対照する　・　分析する<br>・　論理的に考える　・　選択・選別・抽出する　・　推考する |

## 社会科

**【上　P73：社会的な見方・考え方】**

社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。

| 見方 | | 考え方 |
|---|---|---|
| ア　社会参加と決まり | ・協力　・権利　・義務　・責任　・法や決まり・社会の習慣 | ・関連付ける<br>・比較する<br>・総合する |
| イ　公共施設の役割と制度 | ・役割(公共施設)　・生活 | |
| ウ　我が国の国土の自然環境と国民生活 | ・自然条件　・位置　・時期　・経過 | |
| エ　産業と生活 | ・自然条件　・役割　・種類　・種類　・分布・変化　・「仕組み・関係」 | |
| オ　我が国の国土の様子と国民生活，歴史 | ・地形　・気候　・世の中の様子　・人物の動き　・文化遺産<br>・位置　・構成　・範囲　・世の中の様子 | |
| カ　外国の様子 | ・文化　・習慣　・役割　・連携　・協力 | |

## 算数数学科

**【上　P107：数学的な見方・考え方】**

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，根拠を基に道筋を立てて考え，総合的・発展的に考えること

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| 事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること<br>※　数学的な見方に関連するものは，思考力，判断力，表現力等の「～に注目して」，「～に着目して」などという文言により記述してある。 | 目的に応じて数，式，図，表，グラフ等を活用し，根拠を基に筋道を立てて考え，問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら総合的・発展的に考えること |

## 理科

**【上　P169：理科の見方・考え方】**

「見方」については，「生命」を柱とした区分では，主として多様性と共通性の視点で捉えることを，「地球・自然」を柱とした区分では，主として時間的・空間的な視点で捉えることを，「物質・エネルギー」を柱とした区分では，主として質的・実体的な視点で捉えたり，量的・関係的な視点で捉えたりすることを，それぞれの区分における特徴的な視点として整理することができる。「考え方」については，生徒が問題解決の過程の中で用いる，比較，関係付け，条件制御，多面的に考えることなどといった考え方を「考え方」として整理することができる。中学部を通して培ってきた「比較する」，「関係付ける」という「考え方」に加え，「条件を制御する」，「多面的に考える」という「考え方」を働かせることにより問題解決を行うことができるようにすることが大切である。

| 見方 | | 考え方 |
|---|---|---|
| 生命 | 多様性と共通性 | ・比較する<br>　複数の自然の事物・現象を対応させ比べること<br>・関連付ける<br>　自然の事物・現象を様々な視点から結び付けること<br>・条件を制御する<br>　自然の事物・現象に影響を与えると考えられる要因について，どの要因が影響を与えるかを調べる際に，変化させる要因と変化させない要因を区別すること<br>・多面的に考える<br>　自然の事物・現象を複数の側面から考えること |
| 地球・自然 | 時間的・空間的 | |
| 物質･エネルギー | 質的・実体的，量的・関係的 | |
| 理科全般 | 原因と結果<br>部分と全体<br>定性と定量 | |
| ※　これらの特徴的な視点はそれぞれ区分固有のものではなく，他の区分においても用いられる視点である。 | | |

## 音楽科

**【上　P213：音楽的な見方・考え方】**

音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，生活や社会，伝統や文化などと関連付けること

| 見方 | | 考え方 | | |
|---|---|---|---|---|
| 音楽を形づくっている要素を使って音や音楽を捉える視点 | 音色<br>リズム<br>速度<br>旋律<br>テクスチュア<br>強弱<br>形式<br>構成 | 音色<br>リズム<br>速度<br>旋律<br>テクスチュア<br>強弱<br>形式<br>構成 | ・　知覚する<br>・　感受する | ・　音楽の形づくられ方を見いだす<br>・　音楽の雰囲気を見いだす<br>・　音楽の表情を見いだす<br>・　自ら曲や演奏のよさを感じ取る<br>・　創意工夫しながら表現する<br>・　社会や文化などと関連付けながら音楽を解釈する<br>・　社会や文化などと関連付けながら評価する |

## 美術科

**【下　P26：造形的な見方・考え方】**

表現及び鑑賞の活動を通して，よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や，想像力を働かせ，対象や事象を，造形的な視点で捉え，自分としての意味や価値をつくりだすこと

| 見方 | | 考え方 |
|---|---|---|
| 形 | 大小，長短，数，図形，立体，身近な具体物 | ・　違いや感じを捉える　・　特徴を捉える<br>・　働きを捉える　・　比較する<br>・　共通点を見出す　・　見立てる<br>・　自分のイメージをもつ（意味や価値をつくりだす）<br>・　よさや美しさ，面白さを感じる |
| 色・色彩 | 単色，色の組み合わせ，色味，混色，明るさ，鮮やかさ，濃淡，重色 | |
| 材料 | 質感，性質，重さ，自然物，人工物 | |
| 光 | 明暗，影，色光 | |
| 表現方法 | 技法，様式，作風 | |
| 空間・動き | 奥行き，流れ | |

## 保健体育科

**【下　P57，P58：体育や保健の見方・考え方】**

「体育の見方・考え方」とは，生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ，「運動やスポーツを，その価値や特性に着目して，楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え，自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」としている。「保健の見方・考え方」とは，疾病や傷害を防止するとともに，生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ，「個人及び社会生活における課題や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること」としている。

**見方**

【価値】公正，協力，責任，参画，共生，健康（体力の向上），安全等
【特性】運動・スポーツの魅力（楽しさや喜びなど）技能的側面（体の動かし方，姿勢，位置，タイミング，方向など）

**考え方**

体育科の考え方
＝自己の適性等に応じて「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること

| | する | みる | 支える | 知る |
|---|---|---|---|---|
| 生涯スポーツにおける捉え | 継続して運動やスポーツを行う。<br>スポーツ大会等に選手として参加する。 | 実際に競技場に行ったり，テレビ中継を見たりして，スポーツ観戦をする。 | サポーターとしてチームを応援する。<br>スポーツ大会等の運営や補助スタッフをする。 | スポーツの時事ニュースについて知る。<br>スポーツの歴史や有名選手などについて調べる。 |

| | する | みる | 支える | 知る |
|---|---|---|---|---|
| 授業レベルでの捉え | 題材で扱う，運動やスポーツに実際に取り組む。 | プロ選手のプレーを映像で確認する。<br>教師や友達の動きやプレーを比較する。<br>○○大会やミニゲームなどで，友達の試合を見る。 | 友達の応援をする。<br>審判補助等をする。 | 実際に行われている大会等の時事ニュースを知る。<br>運動やスポーツ自体の概要やルールについて知る。 |

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| 健康や安全に関する原則や概念 | 保健の考え方<br>＝疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること |

## 職業科

**【下　P104：職業に係る見方・考え方】**

「職業に係る見方・考え方を働かせ」とは，職業に係る事象を，将来の生き方等の視点で捉え，よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うことを示したものである。

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| 将来の生活や生き方とつなげて考える視点 | ・既知の知識や技能を結び付ける<br>・将来の職業生活に主体的に関わり，課題を解決する |

## 家庭科

**【下　P132：生活の営みに係る見方・考え方】**

「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とは，家庭科が学習対象としている家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，生涯にわたって，自立し共に生きる生活を創造できるよう，よりよい生活を営むために工夫することを示したものである。

| 見方 | 考え方 |
|---|---|
| 健全で豊かな家庭生活の営みとつなげて考える視点<br>①協力・協同　②健康・快適・安全<br>③生活文化の継承・創造　④持続可能な社会の構築 | ・実生活から課題を見出す<br>・課題を関連付けて，解決策を考える<br>・体験的活動の結果を理由とともに説明する<br>・他者と自分の意見の相違点，共通点を基に評価・改善する |

## 特別の教科道徳

**見方・考え方**

（中教審答申 H28.12.21）
様々な事象を道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え，自己の生き方について考えること

単元(題材)名【　　　　　　　　　　　　　　　　　　　】
授業者（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）　**ツール２**

# 本校の子どもの「深い学び」の姿のイメージと「深い学び」を実現するために有効だった工夫

| 「深い学び」の姿のイメージ | 「深い学び」を実現するために有効だった工夫 | |
|---|---|---|
| | 学習活動の設定 | 指導及び支援 |
| **① 知識を相互に関連付けてより深く理解する。**<br>**既習の知識と新しい知識，生活場面などを結び付けて説明したり，理解したりすること**<br>・ 学んだことと生活の関連に気付く [主]<br>・ 学んだことと他の学習との関連に気付く [主]<br>・ 体験を伴う活動に取り組みながら理解する<br>・ 分かったことや考えたことに理由を添えて説明する [対]　など | □ 日常生活と関係のある課題に取り組む活動<br>□ 前の学習を振り，これまでの学習とのつながりに気付ける活動<br>□ 自分の考えに理由や特徴を添えて説明する活動<br>□ 達成感を得ながら，学べるスモールステップでの活動<br>□ | □ 写真やイラスト，動画，具体物，半具体物を使用することで，対象への明確なイメージをもつことができるようにする。<br>□ 学習ファイルでこれまでの学びを確認できるようにする。<br>□ 本時の学習と関連のある学びの履歴を掲示する。<br>□ 身に付けたことをどのような場面で生かすことができるのか，具体的な事例で伝えたり，考えたりできるようにする。<br>□ |
| **② 情報を精査して考えを形成する。**<br>**必要な情報について詳しく調べたり，複数の情報を基に選択，比較などしたりして考えること**<br>・ 対象や事象の意味を調べる [対]<br>・ 提示された情報や教師のモデル，友達の意見や活動などを手掛かりにして考える [対]<br>・ 選択肢から自分の考えに合うものを選ぶ [主]<br>・ 複数の物を比較して考える [対]　など | □ 辞書，ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ，学習ファイル，掲示物などを活用して，対象や事象について詳しく調べる活動<br>□ 友達や教師と意見交換する活動<br>□ 複数の物を比較して考える活動<br>□ | □ これまでの学びの情報やキーワードやヒントを提示して，考える手掛かりにできるようにする。<br>□ 正誤の明確なモデルを提示し，判断できるようにする。<br>□ 友達の様子を参考にできる環境を設定する。<br>□ 例を示して，見通しをもてるようにする。<br>□ 具体物や半具体物を操作しながら考えることができるようにする。<br>□ 子どものつぶやきを可視化して提示する。<br>□ |
| **③ 問題を見いだして解決策を考える。**<br>**分からないことや課題に気付いて目標を立て，予想したり，試行したりしながら問題を解決すること**<br>・ 分からないことや課題などの問題に気付く<br>・ 自分自身で目標を立てたり，友達や教師と話し合って目標を立てたりする [対]<br>・ 問題の解決方法を予想する<br>・ 知っている方法や考えた方法で試行する [主]　など | □ めあてや目標を子ども自身が考える活動<br>□ うまくいかなかった事例を基に原因を考える活動<br>□ 様々な方法で繰り返し試行する活動<br>□ | □ クイズ形式など，子どもが興味をもって取り組める発問をする。<br>□ チェック表を活用して，自分でできていることやできていないことを実感できるようにする。<br>□ 複数ある方法の中から学び方や考え方を選べるようにする。<br>□ 「なんでだろうね。」や「どうしてだと思う。」などの問い掛けをして思考を働かすことができるようにする。<br>□ |
| **④ 思いや考えを基に創造する。**<br>**学んだことに自分の思いや考えを取り入れて新たな表現をすること**<br>・ 学んだことを異なる状況や場面で発揮する<br>・ 学んだことを生かして，感じたことや考えを基に自分なりの表現をする<br>・ 学んだことを基に，新たな表現をする　など | □ 学んだことを違う物や状況で生かす活動<br>□ 考えたことを文や絵，図などにまとめる活動<br>□ | □ 複数ある方法の中から表現方法を選ぶことができるようにする。<br>□ 自信をもてるような言葉掛けや称賛をする。<br>□ |

※ 「主体的な学び」,「対話的な学び」と関連のある姿には[主]・[対]を記してある。

## 授業計画シート（主体的・対話的で深い学び）

**ツール３**

| 学部 | 教科等名 | 学習集団 | 単元・題材名 | 総時数（実施時期） | 必要時数（望ましい時期） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間（　　）月 | 時間（　）月頃 |

| 単元・題材の全体目標 | |
|---|---|
| 知・技 | |
| 思・判・表 | |
| 学向 | |

| | 個人目標・実態目標 | 児童・生徒名 |
|---|---|---|
| 知・技 | | |
| | | |
| | | |

| | 個人目標・実態目標 | 児童・生徒名 |
|---|---|---|
| 思・判・表 | | |
| | | |
| | | |

| 本単元・題材において働かせる「教科等の見方・考え方」 | 深い学びの姿　① 知識を相互に関連付けてより深く理解する。② 情報を精査して考えを形成する。③ 問題を見いだして解決策を考える。　④ 思いや考えを基に創造する。 |
|---|---|
| 見　方：<br>考え方： | ①<br>②<br>③<br>④ |

| 学習指導要領との対応（各教科等の内容）<br>記入例：【教科名】／内容・＜資質・能力の三つの柱＞・（段階） | 次 | 時数 | 学習活動 | 「深い学び」を実現するための工夫<br>※　番号は上記の深い学びの姿との対応を示す。 | 学習上の特性等 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 一 | | | | |
| | 二 | | | | |

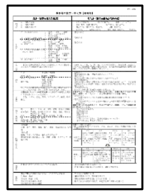
# ツール３ 授業計画シートの記入内容

## 各教科等の見方・考え方の記入

※　ツール１や学習指導要領を参考に，単元・題材で児童生徒が働かせる見方・考え方を想定し記入する。

ツール１【教科等の見方・考え方一覧表】

【学習指導要領】



## 個人目標・実態目標の記入

※　全体目標を基に，児童生徒の実態に合った教育内容を確認し，「知識及び技能」，「思考力・判断力・表現力等」の目標を設定する。

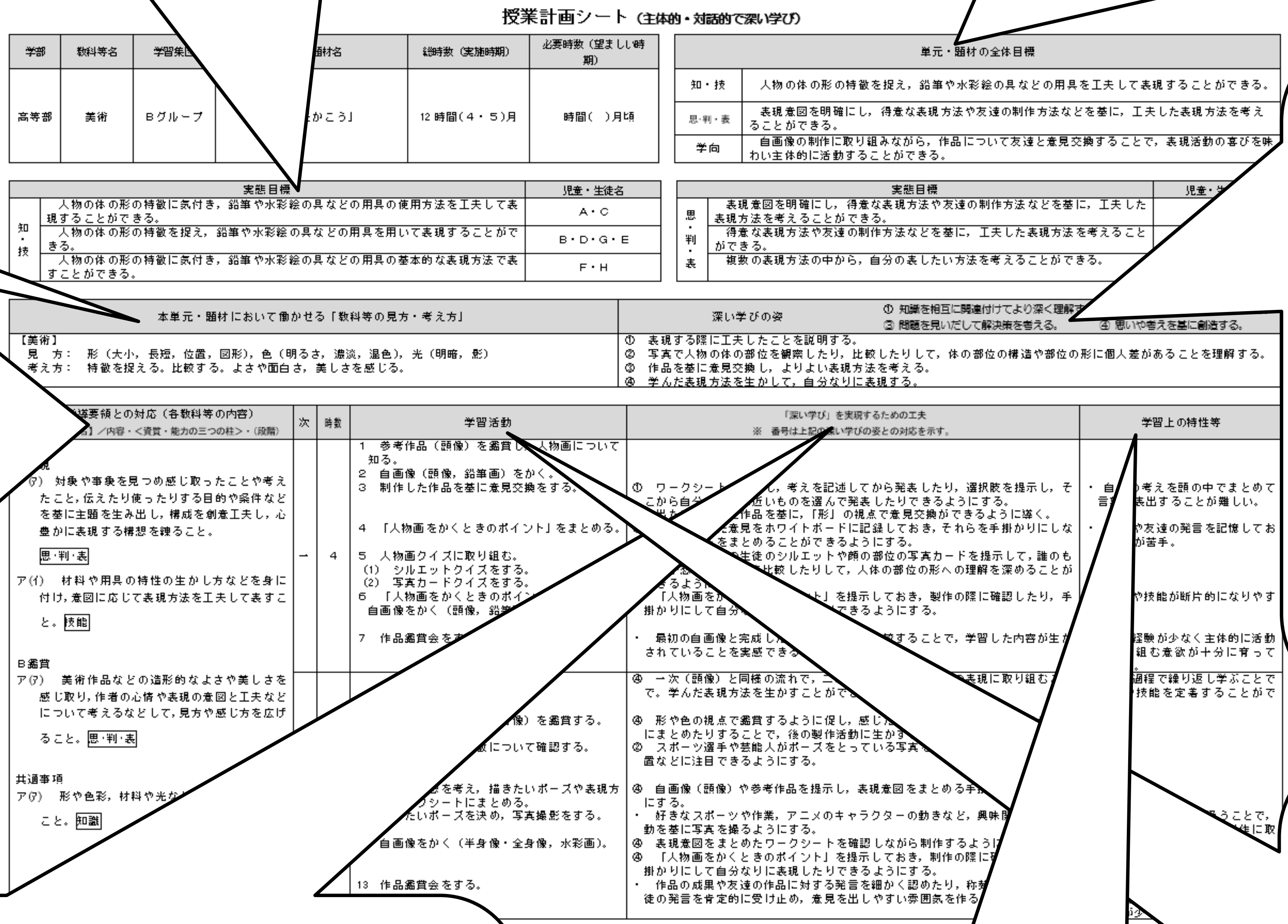
※　少人数の学習グループの場合は個人目標を記入する。

※　学習グループの人数が多い場合は，児童生徒の実態の近い児童生徒をグループに分け実態目標を設定する。

## 全体目標の記入

※　選定した教育内容に基づき，「知識及び技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の３観点で目標を記入する。

※　「学びに向かう力・人間性等」の目標は，教育内容として設定してある教科（体育，職業など）以外は，学習グループの実態に応じた段階の教科の目標をベースにして，単元（題材）の目標を設定する。



授業計画シート（主体的・対話的で深い学び）

| 学部 | 教科等名 | 学習集団 | 題材名 | 総時数（実施時期） | 必要時数（望ましい時期） |
|---|---|---|---|---|---|
| 高等部 | 美術 | Ｂグループ | …かこう」 | 12 時間（４・５）月 | 時間（　）月頃 |

| 単元・題材の全体目標 | |
|---|---|
| 知・技 | 人物の体の形の特徴を捉え，鉛筆や水彩絵の具などの用具を工夫して表現することができる。 |
| 思・判・表 | 表現意図を明確にし，得意な表現方法や友達の制作方法などを基に，工夫した表現方法を考えることができる。 |
| 学向 | 自画像の制作に取り組みながら，作品について友達と意見交換することで，表現活動の喜びを味わい主体的に活動することができる。 |

| | 実態目標 | 児童・生徒名 |
|---|---|---|
| 知・技 | 人物の体の形の特徴に気付き，鉛筆や水彩絵の具などの用具の使用方法を工夫して表現することができる。 | Ａ・Ｃ |
| | 人物の体の形の特徴を捉え，鉛筆や水彩絵の具などの用具を用いて表現することができる。 | Ｂ・Ｄ・Ｇ・Ｅ |
| | 人物の体の形の特徴に気付き，鉛筆や水彩絵の具などの用具の基本的な表現方法で表すことができる。 | Ｆ・Ｈ |

| | 実態目標 | 児童・生… |
|---|---|---|
| 思・判・表 | 表現意図を明確にし，得意な表現方法や友達の制作方法などを基に，工夫した表現方法を考えることができる。 | |
| | 得意な表現方法や友達の制作方法などを基に，工夫した表現方法を考えることができる。 | |
| | 複数の表現方法の中から，自分の表したい方法を考えることができる。 | |

| 本単元・題材において働かせる「教科等の見方・考え方」 | 深い学びの姿　① 知識を相互に関連付けてより深く理解す…　③ 問題を見いだして解決策を考える。　④ 思いや考えを基に創造する。 |
|---|---|
| 【美術】<br>見　方：　形（大小，長短，位置，図形），色（明るさ，濃淡，混色），光（明暗，影）<br>考え方：　特徴を捉える。比較する。よさや面白さ，美しさを感じる。 | ①　表現する際に工夫したことを説明する。<br>②　写真で人物の体の部位を観察したり，比較したりして，体の部位の構造や部位の形に個人差があることを理解する。<br>③　作品を基に意見交換し，よりよい表現方法を考える。<br>④　学んだ表現方法を生かして，自分なりに表現する。 |

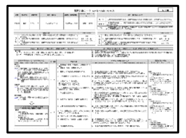
| …導要領との対応（各教科等の内容）…】／内容・＜資質・能力の三つの柱＞・（段階） | 次 | 時数 | 学習活動 | 「深い学び」を実現するための工夫　※　番号は上記の深い学びの姿との対応を示す。 | 学習上の特性等 |
|---|---|---|---|---|---|
| …(ｱ)　対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと，伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し，構成を創意工夫し，心豊かに表現する構想を練ること。思・判・表<br>ア(ｲ)　材料や用具の特性の生かし方などを身に付け，意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。技能<br>Ｂ鑑賞<br>ア(ｱ)　美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を広げること。思・判・表<br>共通事項<br>ア(ｱ)　形や色彩，材料や光な…こと。知識 | 一 | ４ | １　参考作品（頭像）を鑑賞し…人物画について知る。<br>２　自画像（頭像，鉛筆画）をかく。<br>３　制作した作品を基に意見交換をする。<br>４　「人物画をかくときのポイント」をまとめる。<br>５　人物画クイズに取り組む。<br>（1）　シルエットクイズをする。<br>（2）　写真カードクイズをする。<br>６　「人物画をかくときのポイ…自画像をかく（頭像，鉛…<br>７　作品鑑賞会を…<br>…自画像をかく（半身像・全身像，水彩画）。<br>13　作品鑑賞会をする。 | ①　ワークシート…し，考えを記述してから発表したり，選択肢を提示し，そこから自分…近いものを選んで発表したりできるようにする。<br>…作品を基に，「形」の視点で意見交換ができるように導く。<br>…意見をホワイトボードに記録しておき，それらを手掛かりにしな…をまとめることができるようにする。<br>…生徒のシルエットや顔の部位の写真カードを提示して，誰のも…比較したりして，人体の部位の形への理解を深めることができるよう…<br>「人物画を…ト」を提示しておき，製作の際に確認したり，手掛かりにして自分…できるようにする。<br>・　最初の自画像と完成し…することで，学習した内容が生かされていることを実感できる…<br>④　一次（頭像）と同様の流れで，…表現に取り組む…で。学んだ表現方法を生かすことができ…<br>④　形や色の視点で鑑賞するように促し，感じ…にまとめたりすることで，後の製作活動に生かす…<br>②　スポーツ選手や芸能人がポーズをとっている写真…置などに注目できるようにする。<br>④　自画像（頭像）や参考作品を提示し，表現意図をまとめる手…にする。<br>・　好きなスポーツや作業，アニメのキャラクターの動きなど，興味… 動を基に写真を撮るようにする。<br>④　表現意図をまとめたワークシートを確認しながら制作するように…<br>④　「人物画をかくときのポイント」を提示しておき，制作の際に…掛かりにして自分なりに表現したりできるようにする。<br>・　作品の成果や友達の作品に対する発言を細かく認めたり，称…徒の発言を肯定的に受け止め，意見を出しやすい雰囲気を作る… | ・　自…の考えを頭の中でまとめて言…表出することが難しい。<br>・　…や友達の発言を記憶してお…が苦手。<br>…や技能が断片的になりやす…<br>…経験が少なく主体的に活動…組む意欲が十分に育って…<br>…過程で繰り返し学ぶことで…技能を定着することがで… |

## 各教科等の内容の記入

※　年間指導計画や個別の指導計画，前年までの授業計画シート等で確認した内容を基にして，学習グループの児童生徒の実態に合った教育内容を選定し記入する。

※　複数の学部や段階の教育内容を扱う場合，書ききれないときは，一番高い段階のものを記入する。

資料等



【年間指導計画】

【学習指導要領解説　各教科等編】

【児童生徒の学習ファイル】

【前年までの授業計画シート】（作成している場合）

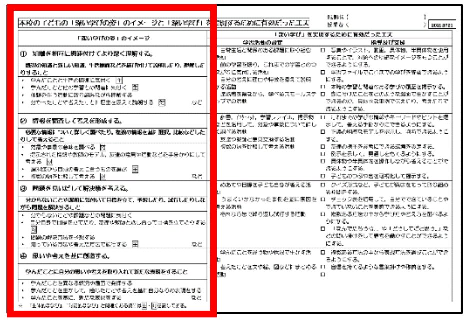
【個別の指導計画】　など

## 深い学びの姿の記入

※　ツール２を基に，単元･題材で想定される深い学びの姿を想定し，記入する。

ツール２

【本校の子どもの「深い学び」の姿のイメージ】

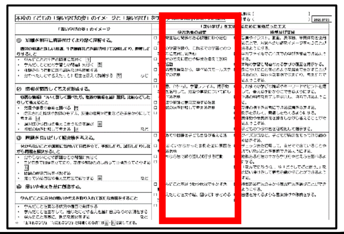


## 学習活動の記入

※　目標を達成するために必要な学習活動を設定し記入する。

※　ツール２も参考にし，新たな活動を取り入れた場合は，チェックボックス横の空欄部分に記入し，チェックを入れる。

ツール２　【「深い学び」を実現するために有効だった工夫】



## 学習活動と「深い学び」を実現するための工夫の記入

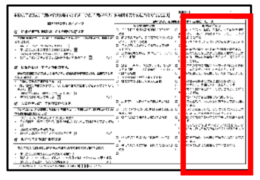
※　学習上の特性等とツール２を参考にして記入する。

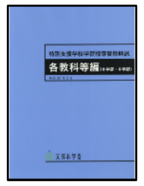
※　「深い学び」の姿との対応を①～④の番号で示す。「深い学び」の姿と対応しない指導及び支援上の留意点は，・で示す。

※　ツール２で活用した内容にチェックを入れる。資料には記載されていない新たな工夫を取り入れた際は，チェックボックス横の空欄部分に記入し，チェックを入れる。

ツール２【「深い学び」を実現するために有効だった工夫】

資料等【学習指導要領】





## 学習上の特性の記入

※　学習集団の児童生徒の学びの特性(学習上の課題や有効な学び方など)を記入する。

資料等

【個別の指導計画】

【個別の教育支援計画】